



標本に基づく和歌山県初記録の魚類 16 種

大西 遼¹・佐久間夢実¹・田邊恵一²・揖 善継³・平嶋健太郎³

Author & Article Info

¹ 串本海中公園センター（東牟婁郡串本町）
RO: onishi@kushimoto.co.jp (corresponding author)
YS: sakuma@kushimoto.co.jp
² 京都大学大学院理学研究科（京都市）
tanabe.keiichi.72x@st.kyoto-u.ac.jp
³ 和歌山県立自然博物館（海南市）
YK: kaji_y0001@pref.wakayama.lg.jp
KH: hirashima_k0001@pref.wakayama.lg.jp

Received 20 August 2026
Revised 24 August 2026
Accepted 24 August 2026
Published 25 August 2026
DOI 10.34583/ichthy.70.0_29

Ryo Onishi, Yuumi Sakuma, Keiichi Tanabe, Yoshitsugu Kaji and Kentarou Hirashima. 2026. First specimen-based records of 16 fish species from Wakayama Prefecture, Japan. Ichthy, Natural History of Fishes of Japan, 70: 29–41.

Abstract

The following 16 species were newly recorded from Wakayama Prefecture, Japan, based on collected specimens: *Gymnothorax fimbriatus* (Bennett, 1832), *Apogon seminigracaudus* Greenfield, 2007, *Silhouettea dotui* (Takagi, 1957), *Choeroichthys sculptus* (Günther, 1870), *Cosmocampus banneri* (Herald and Randall, 1972), *Cynoglossus itinus* (Snyder, 1909), *Petroscirtes mitratus* Rüppell, 1830, *Plectropomus laevis* (Lacepède, 1801), *Scorpaenopsis ramaraoi* Randall and Eschmeyer, 2002, *Sebastapistes cyanostigma* (Bleeker, 1856), *Oxycirrhites typus* Bleeker, 1857, *Matsubaraea fusiformis* (Fowler, 1943), *Arothron immaculatus* (Bloch and Schneider, 1801), *Arothron reticularis* (Bloch and Schneider, 1801), *Canthigaster amboinensis* (Bleeker, 1864) and *Abalistes filamentosus* Matsuura and Yoshino, 2004. Among them, *C. banneri* represents the first specimen-based record from Honshu, Japan.

和歌山県南部の沿岸は世界最大級の暖流である黒潮の影響を強く受けるため、温帯性魚類のみならず、熱帯・亜熱帯性魚類も数多く出現することが知られている（池田・中坊, 2015；福田・小寺, 2019；大西, 2024）。和歌山県沿岸の魚類相については、これまでに多くの研究が行われており（宇井, 1924；蒲原, 1950；荒賀・田名瀬, 1966；福田・御前, 1992a, b；福井, 1999；池田・中坊, 2015；福田・

小寺, 2019；大西, 2024；甲斐・御所, 2025），2,000 種以上の魚類が生息すると推定されている（平嶋, 2022）。一方で、近年においても黒潮により南方域から輸送されてきたと考えられる熱帯・亜熱帯性魚類の本県初記録となる報告が相次いでいることから（例えば、吉田・大西, 2025；大西ほか, 2025；久保ほか, 2026），本県沿岸の魚類相はいまだ十分に解明されているとは言い難い。そのため、本県沿岸の魚類相をより正確に把握するには、継続的な調査と標本に基づく記録の蓄積が不可欠である。

2025 年から 2026 年にかけて、和歌山県南部において本県初記録となるヘリゴイシウツボ *Gymnothorax fimbriatus* (Bennett, 1832), オグロテンジクダイ *Apogon seminigracaudus* Greenfield, 2007, シラヌイハゼ *Silhouettea dotui* (Takagi, 1957), チゴヨウジ *Choeroichthys sculptus* (Günther, 1870), ヒナヨウジ *Cosmocampus banneri* (Herald and Randall, 1972), ミナミアカシタビラメ *Cynoglossus itinus* (Snyder, 1909), ハタタギンボ *Petroscirtes mitratus* Rüppell, 1830, コクハンアラ *Plectropomus laevis* (Lacepède, 1801), イヌカサゴ *Scorpaenopsis ramaraoi* Randall and Eschmeyer, 2002, カスリフサカサゴ *Sebastapistes cyanostigma* (Bleeker, 1856), クダゴンベ *Oxycirrhites typus* Bleeker, 1857, マツバラトラギス *Matsubaraea fusiformis* (Fowler, 1943), カスミフグ *Arothron immaculatus* (Bloch and Schneider, 1801), ワモンフグ *A. reticularis* (Bloch and Schneider, 1801), ゴマフキンチャクフグ *Canthigaster amboinensis* (Bleeker, 1864), およびイトヒキオキハギ *Abalistes filamentosus* Matsuura and Yoshino, 2004 の標本が得られた。加えてチゴヨウジ, ミナミアカシタビラメ, およびカスミフグは和歌山県立自然博物館の所蔵標本からも確認された。また、ヒナヨウジは本州からの初記録であった。これらの記録は、本県沿岸の魚類相に関する知見の蓄積に資すると思われるため、ここに報告する。

材料と方法

標本の計数・計測方法は概ね中坊・中山 (2013) に

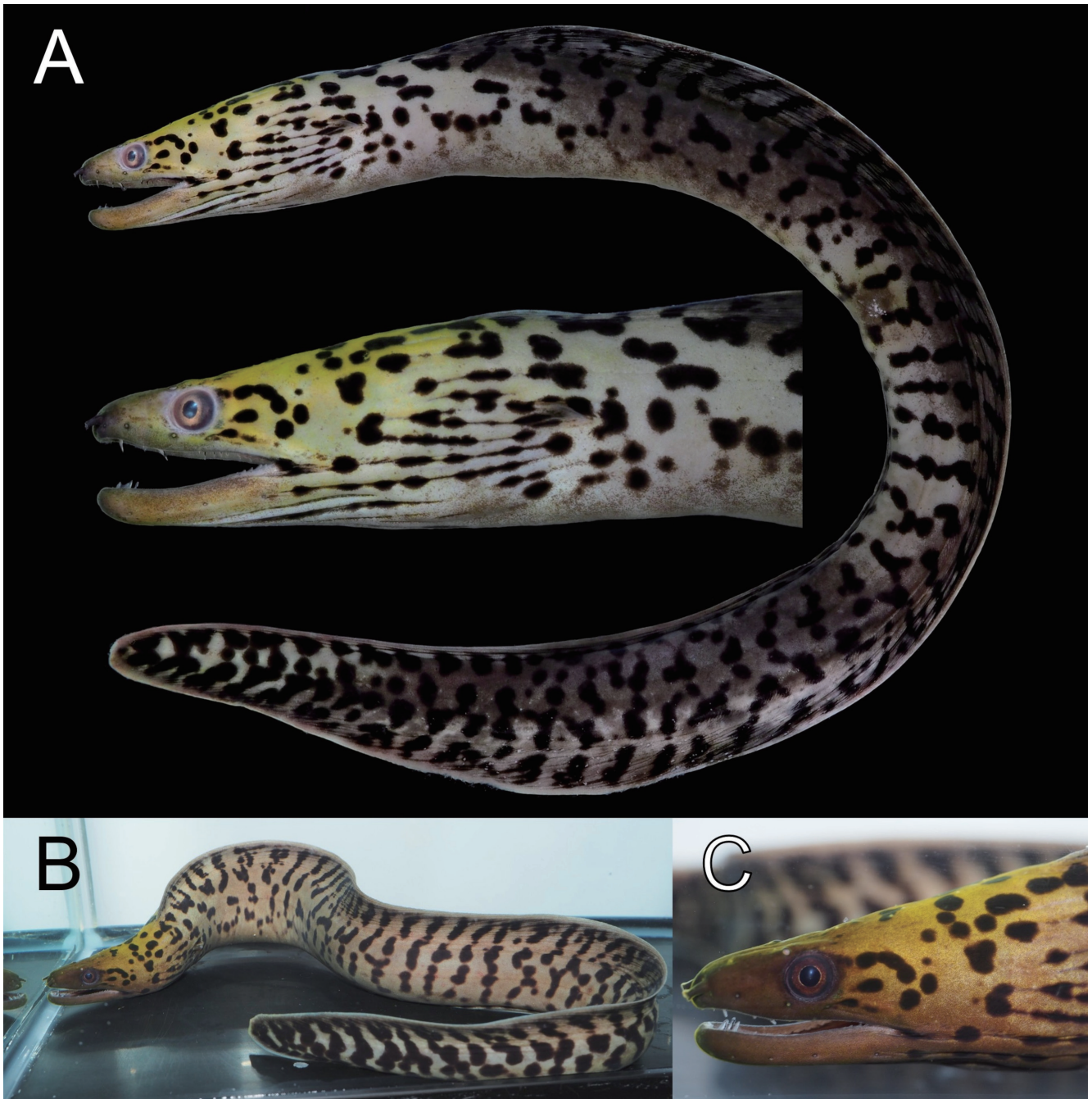


Fig. 1. Fresh specimen (A) and live individual (B, C) of *Gymnothorax fimbriatus* (WMNH-PIS 14604, 430.1 mm TL) from Wakayama Prefecture, Japan.

したが、軀幹輪数、尾輪数、および体輪数の計数は Dawson (1985) にしたがった。計測はデジタルノギスを用いて 0.01 mm の単位で行い、小数第 2 位は四捨五入した。標準体長 (standard length) は体長または SL、全長 (total length) は全長または TL と表記した。各種の学名と科および種の掲載順は本村 (2026) に準拠した。本報告に用いた標本は和歌山県立自然博物館 (WMNH) と京都大学総合博物館 (FAKU) に登録・保管されている。なお、KPM-NR は神奈川県立生命の星・地球博物館 (KPM) の魚類写真資料データベースの略号であり、資料番号はデータベース上では 0 を含めた 7 桁の数字で表記されているが、ここでは実質的な有効数字で記した。本報告に用いた標本

はすべて和歌山県産であるため、標本の項ではそれ以下の地名のみ表記した。

ウツボ科 Muraenidae

Gymnothorax fimbriatus (Bennett, 1832)

ヘリゴイシウツボ (Fig. 1)

標本 WMNH-PIS 14604, 全長 430.1 mm, 東牟婁郡串本町大島 大島港 (33°28'14"N, 135°48'06"E), 水深 0.1 m, タモ網, 2026 年 2 月 6 日 (2026 年 2 月 18 日まで飼育), 寺町幸音・寺町早紀。

同定 和歌山県産の標本は、背鰭起部が鰓孔より前方

に位置すること、肛門が体の中央よりやや前方に位置すること、吻は長くやや尖ること、歯が全て鋭いこと、主上顎骨歯は前方で2列、後方で1列であること、前上顎骨板中央部が1列であること、体に眼径大と不定形の黒褐色の斑紋が横帯状に連続して並ぶこと、頭部の斑紋は体の斑紋よりもやや小さいこと、垂直鰭の縁辺が白いこと、および生時、頭部には黄色の粘液を被ること (Fig. 1C) などが波戸岡 (2013a, b) の示したヘリゴイシウツボ *G. fimbriatus* の特徴に一致したため、本種に同定された。

分布 本種はインド・太平洋に広く分布し (波戸岡, 2013a), 日本国内では伊豆諸島 (八丈島), 小笠原諸島, 和歌山県串本, 高知県 (柏島), 鹿児島県本土, 大隅諸島 (竹島, 口永良部島, 種子島, 屋久島), トカラ列島 (中之島), 奄美群島 (奄美大島, 喜界島, 徳之島, 沖永良部島), 沖縄諸島 (沖縄島), 慶良間諸島 (渡嘉敷島), および八重山諸島 (西表島, 与那国島) から記録されている (波戸岡, 1997, 2013a, b; 渡井ほか, 2009; 坂井ほか, 2009; 小寺, 2013; 鎗木, 2016; Motomura and Harazaki, 2017; 木村ほか, 2017; Nakae et al., 2018; Mochida and Motomura, 2018; 日比野, 2019; Fujiwara and Motomura, 2020; 下瀬, 2021; 日比野ほか, 2021; Jeong and Motomura, 2021; 萩原, 2022; Motomura, 2023; 古橋ほか, 2024; 吉田ほか, 2025)。

本種の和歌山県における記録について、小寺 (2013) は串本町から本種を報告しているが、この記録は目視観察に基づく記録であった。したがって、今回得られた標本は本種の標本に基づく和歌山県からの初記録となる。

備考 和歌山県産の標本は、夜間に漁港内の表層を遊泳していたところを採集された。これまで和歌山県では2例の出現記録しかないことや (小寺, 2013; 本研究), 大隅諸島以北における出現が散発的であることなどを考慮すると、本標本は黒潮により南方域から偶発的に輸送されてきた個体であると考えられる。また、本標本は低水温期である2月 (採集時の水温 18.3°C) に採集されており、採集時に表層を遊泳していたことから衰弱していた可能性も考えられるが、本県沿岸における越冬の有無については今後引き続き調査する必要がある。

テンジクダイ科 Apogonidae

Apogon seminigracaudus Greenfield, 2007

オグロテンジクダイ (Fig. 2A)

標本 WMNH-PIS 14614, 体長 23.4 mm, 東牟婁郡串本町有田 串本海中公園センター地先, 水深 5 m, タモ網, 2025 年 11 月 30 日 (2025 年 12 月 21 日まで飼育), 佐久間夢実。

同定 和歌山県産の標本は、側線が1本であること、腹縁に発光腺をもたないこと、尾鰭前鰭条の最長軟条が

分節すること、背鰭軟条数が9、臀鰭軟条数が8、前鰓蓋骨腹縁の皮弁が骨化しないこと、および前鰓蓋骨後縁下方の皮弁が前鰓蓋骨後縁直下を越えないことが Mabuchi et al. (2014) の示したコミナトテンジクダイ属 *Apogon* の特徴に一致した。また、吻端がやや尖ること、体高は頭長の 1.21 倍であること、背鰭第2棘は後方に倒しても第2背鰭基底の中央に達しないこと、体側鱗が暗赤褐色であること、および尾柄部と尾鰭下葉が黒いことが林 (2013) の示したオグロテンジクダイ *A. seminigracaudus* の特徴に一致したため、本種に同定された。

分布 本種は西太平洋に分布し (馬淵・吉田, 2018; Allen and Erdmann, 2024), 日本国内では新潟県 (佐渡島), 千葉県, 静岡県, 高知県, 愛媛県, 鹿児島県本土, 甌島列島, 大隅諸島 (種子島, 屋久島), および琉球列島から記録されている (萩原・木村, 2005; 高木ほか, 2010; 林, 2013; Motomura and Harazaki, 2017; 馬淵・吉田, 2018; Nakae et al., 2018; 吉田, 2019, 2022; 萩原, 2022; Motomura, 2023; Koreeda and Motomura, 2025)。本研究により新たに和歌山県から記録された。

備考 和歌山県産の標本は、夜間に有藻性サンゴ類が点在する岩礁帯で採集され、同所では同属のアカフジテンジクダイ *Apogon crassiceps* Garman, 1903 とコミナトテンジクダイ *Apogon kominatoensis* Ebina, 1935 が確認された。

ハゼ科 Gobiidae

Silhouettea dotui (Takagi, 1957)

シラヌイハゼ (Fig. 2B, C)

標本 WMNH-PIS 14617, 体長 17.9 mm, 東牟婁郡串本町上浦沖, 水深 9.0 m, 素手, 2025 年 11 月 13 日 (2025 年 11 月 18 日まで飼育), 赤松佳樹。

同定 和歌山県産の標本は、吻が極端に短いこと、眼が頭部背側面にあること、口は強く斜め上方を向くこと、体が円筒形であること、臀鰭基底長が第2背鰭基底長より長いこと、および腹鰭が大きな吸盤状で、膜蓋の後縁が鋸歯状に切れ込むことが鈴木ほか (2021) の示したシラヌイハゼ属の特徴に一致した。また、頭頂部に広い被鱗域がないこと、腹鰭前方域が被鱗すること、および第1背鰭の後方に白色で縁取られた黒斑をもつことなどが明仁ほか (2013) と是枝・本村 (2025) の示したシラヌイハゼ *S. dotui* の特徴によく一致したため、本種に同定された。

分布 本種は日本から台湾にかけて分布し (明仁ほか, 2013; Senou, 2019), 日本国内では青森県, 山形県, 新潟県, 千葉県, 神奈川県, 静岡県, 若狭湾, 瀬戸内海, 山口県, 香川県, 高知県, 愛媛県, 福岡県, 佐賀県, 大分県, 長崎県, 鹿児島県本土, および大隅諸島 (種子島) から記録されている (道津, 1958; 本間ほか, 1972; 林・工藤, 1993; 竹



Fig. 2. Fresh specimens of *Apogon seminigracaudus* (A: WMNH-PIS 14614, 23.4 mm SL), *Silhouettea dotui* (B: WMNH-PIS 14617, 17.9 mm SL), *Choeroichthys sculptus* (D: WMNH-PIS 14606, 34.4 mm SL), and *Cosmocampus banneri* (E, F: WMNH-PIS 14607, 22.1 mm SL) a live individual of *Silhouettea dotui* (C: WMNH-PIS 14617), and a preserved specimen of *Cynoglossus itinus* (G: WMNH-PIS 12388, 33.7 mm SL) from Wakayama Prefecture, Japan.

内ほか, 2012; 明仁ほか, 2013; 大河ほか, 2014; Matsui et al., 2014; 吉郷, 2018; 日比野ほか, 2025; 是枝・本村, 2025; 百瀬・尾山, 2026; 川崎, 2026; 是枝ほか, 2026). 本研究により新たに和歌山県から記録された。

備考 和歌山県産の標本は、水深 9 m の潮通しの良い砂底から採集され、同所では本標本の他にも複数個体の本種の生息が確認・撮影されている (赤松佳樹氏, 私信)。

ヨウジウオ科 Syngnathidae

Choeroichthys sculptus (Günther, 1870)

チゴヨウジ (Fig. 2D)

標本 WMNH-PIS 12786, 体長 36.5 mm, 東牟婁郡串本町 串本港, タモ網, 2021 年 10 月 2 日, 脇本総志・坂東俊哉; WMNH-PIS 14605, 体長 38.1 mm, 東牟婁郡串本町 大島 大島港 (33°28'14"N, 135°48'06"E), 水深 0.1 m, タモ網, 2025 年 9 月 23 日, 寺町幸音・寺町早紀; WMNH-PIS 14606, 体長 34.4 mm, 東牟婁郡串本町 大島 大島港 (33°28'14"N, 135°48'06"E), 水深 0.1 m, タモ網, 2025 年 9 月 26 日, 寺町幸音・寺町早紀。

同定 和歌山県産の標本は、背鰭軟条数が 28–32, 胸鰭条数が 19–20, 軀幹輪数が 19, 尾輪数が 23–24, 背鰭基底下の体輪数が 8, 背鰭起部が肛門より前方にあること, お

よび中間板に隆起線をもつことが Dawson (1976, 1985) と瀬能 (2013a) の示したチゴヨウジ *C. sculptus* の特徴に一致したため、本種に同定された。

分布 本種はインド・西太平洋に広く分布し (Dawson, 1985), 日本国内では静岡県, 高知県, 鹿児島県本土, 大隅諸島 (屋久島), 奄美群島 (喜界島, 与論島), 沖縄諸島 (久米島), および慶良間諸島 (渡嘉敷島) から記録されている (渡井ほか, 2009; 瀬能, 2013a; 松沼, 2014, 2019; 吉郷, 2014; Motomura and Harazaki, 2017; Fujiwara and Motomura, 2020; 幸ほか, 2022)。本研究により新たに和歌山県から記録された。

備考 和歌山県産の 3 標本は、漁港内を漂流していた流れ藻や流木に付随しており、同所ではトゲヨウジ *Syngnathoides biaculeatus* (Bloch, 1785), ヨウジウオ *Syngnathus schlegeli* Kaup, 1853, カンパチ *Seriola dumerili* (Risso, 1810), シイラ *Coryphaena hippurus* Linnaeus, 1758, マツダイ *Lobotes surinamensis* (Bloch, 1790), ソウシハギ *Aluterus scriptus* (Osbeck, 1765), およびアミモンガラ *Canthidermis maculata* (Bloch, 1786) が確認された。

Cosmocampus banneri (Herald and Randall, 1972)

ヒナヨウジ (Fig. 2E, F)

標本 WMNH-PIS 14607, 体長 22.1 mm, 東牟婁郡串本町田子沖, 水深 21 m, 素手, 2025 年 11 月 14 日 (2025 年 11 月 27 日まで飼育), 大西 遼.

同定 和歌山産の標本は, 背鰭軟条数が 16, 尾鰭軟条数が 10, 軀幹輪数が 15, 軀幹部と尾部の上隆起線が不連続であること, 軀幹部と尾部の下隆起線が連続すること, 軀幹部の中央隆起線が直線状で肛門輪付近に達すること, 各隆起線が円滑であること, 主鰓蓋骨の隆起線が発達すること, および吻背面の隆起線が突起状であることが Dawson (1985) と瀬能 (2013a) の示したヒナヨウジ *C. banneri* の特徴に一致したため, 本種に同定された.

分布 本種は紅海を含むインド・西太平洋に広く分布し (Herald and Randall, 1972), 日本国内では伊豆諸島, 小笠原諸島, 高知県 (沖の島, 柏島), 鹿児島県本土, 奄美群島 (奄美大島, 加計呂麻島, 沖永良部島), および沖縄諸島以南の琉球列島から記録されている (瀬能, 2013a; 松沼, 2019; Motomura and Uehara, 2020; 萩原, 2022; 幸ほか, 2023; 本田ほか, 2024; Yuki et al., 2025). 本研究により新たに和歌山県から記録された. なお, この記録は本州からの初記録となる.

備考 和歌山県産の標本は, 水深 21 m の岩礁帯に堆積したサンゴ片と貝殻片の間から採集された.

ウシノシタ科 Cynoglossidae

Cynoglossus itinus (Snyder, 1909)

ミナミアカシタビラメ (Fig. 2G)

標本 WMNH-PIS 12388, 体長 33.7 mm, 西牟婁郡すさみ町江住 江須崎, 水深 0.1 m, タモ網, 2021 年 1 月 13 日, 平井厚志; WMNH-PIS 14618, 体長 13.2 mm, 東牟婁郡串本町串本 串本港 (33°28'06"N, 135°46'56"E), 水深 0.1 m, タモ網, 2025 年 7 月 26 日 (2025 年 8 月 11 日まで飼育), 織部啓三郎.

同定 和歌山県産の標本は, 口が湾曲すること, 口唇に触鬚がないこと, 有眼側の側線が 3 列で, 無眼側に有孔側線がないこと, および鼻孔が 1 個であることなどが山田・柳下 (2013a) の示したミナミアカシタビラメ *C. itinus* の特徴によく一致したため, 本種に同定された.

分布 本種はインド・西太平洋に広く分布し (笹木, 2025), 日本国内では千葉県, 神奈川県, 静岡県, 愛知県, 三重県, 瀬戸内海, 高知県, 福岡県, 長崎県, 日向灘海域 (大分県佐賀関から大隅半島東岸), 宮崎県, 鹿児島県本土, および琉球列島から記録されている (大橋・本村, 2011; 荒尾・玉井, 2011; 竹内ほか, 2012; 山田・柳下, 2013a; 大河ほか, 2014; Iwatsuki et al., 2017; 村瀬ほか, 2019, 2021; 工藤ほか, 2022; 百瀬・尾山, 2024; 笹木, 2025). 本研究により新たに和歌山県から記録された.

備考 和歌山県産の標本のうち, WMNH-PIS 12388 はタイドプール内から, WMNH-PIS 14618 は漁港内を浮遊していたところを採集された.

イソギンボ科 Blenniidae

Petroscirtes mitratus Rüppell, 1830

ハタタテギンボ (Fig. 3A)

標本 WMNH-PIS 14741, 体長 39.3 mm, 東牟婁郡串本町大島 大島港 (33°28'14"N, 135°48'06"E), 水深 0.1 m, タモ網, 2026 年 7 月 28 日, 寺町幸音・寺町早紀.

同定 和歌山県産の標本は, 背鰭が 11 棘 16 軟条で, 第 1 棘が第 2 棘よりも長いこと, 腹鰭が 1 棘 3 軟条, 背鰭起部が眼の後縁より後ろにあること, 口が亜端位であること, および下顎の犬歯が大きいことなどが藍澤・土居内 (2013) の示したハタタテギンボ *P. mitratus* の特徴に一致したため, 本種に同定された.

分布 本種はインド・西太平洋に広く分布し (藍澤・土居内, 2013), 日本国内では静岡県, 愛媛県, 高知県, 鹿児島県本土, 大隅諸島 (口永良部島, 種子島, 屋久島), および奄美大島以南の琉球列島から記録されている (Senou et al., 2006a; 渡井ほか, 2009; 藍澤・土居内, 2013; Motomura and Harazaki, 2017; 木村ほか, 2017; Nakae et al., 2018; Mochida and Motomura, 2018; 川間, 2019; 太田, 2020; Fujiwara and Motomura, 2020; 下瀬, 2021; 赤池ほか, 2021; 萩原, 2022; Motomura, 2023; 古橋ほか, 2024; 中村ほか, 2024). 本研究により新たに和歌山県から記録された.

備考 和歌山県産の標本は, 夜間に漁港内を浮遊していたところを採集された.

ハタ科 Epinephelidae

Plectropomus laevis (Lacepède, 1801)

コクハンアラ (Fig. 3B)

標本 WMNH-PIS 14613, 体長 82.8 mm, 東牟婁郡串本町有田 串本海中公園センター地先 (33°28'46"N, 135°44'45"E), 水深 6 m, タモ網, 2025 年 12 月 14 日 (2026 年 2 月 16 日まで飼育), 大西 遼.

同定 和歌山県産の標本は, 背鰭棘数が 8, 前鰓蓋骨後縁が鋸歯状であること, 臀鰭が 3 棘で, 第 1 棘が皮下に埋没すること, および体に斑点があることが瀬能 (2013b) と中村・本村 (2022) の示したスジアラ属の特徴に一致した. また, 尾鰭後縁が浅い湾入形であること, 体側に 4 本の濃褐色横帯があること, および各鰭が黄色で, 胸鰭基底に濃褐色斑があることなどが瀬能 (2013b) と桜井 (2014) の示したコクハンアラ *P. laevis* の特徴に一致したため, 本

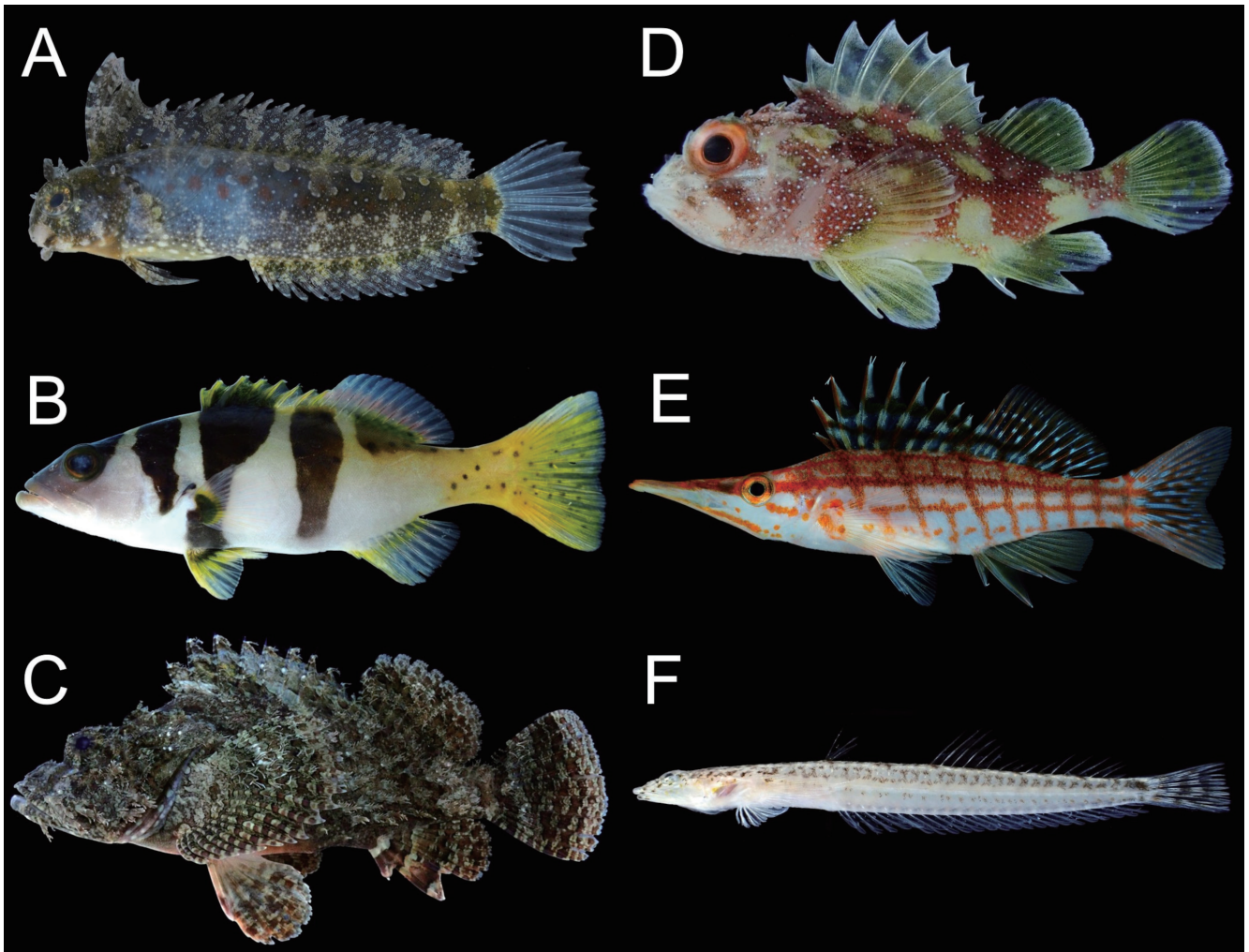


Fig. 3. Fresh specimens of *Petrosциrtes mitratus* (A: WMNH-PIS 14741, 39.3 mm SL), *Plectropomus laevis* (B: WMNH-PIS 14613, 82.8 mm SL), *Scorpaenopsis ramaraoi* (C: WMNH-PIS 14608, 132.4 mm SL), *Sebastapistes cyanostigma* (D: WMNH-PIS 14612, 27.8 mm SL), *Oxycirrhites typus* (E: WMNH-PIS 14688, 65.1 mm SL), and *Matsubaraea fusiformis* (F: WMNH-PIS 14615, 38.3 mm SL) from Wakayama Prefecture, Japan.

種に同定された。

分布 本種はインド・太平洋に広く分布し（瀬能, 2013b), 日本国内では伊豆諸島（八丈島), 小笠原諸島, 千葉県, 和歌山県串本, 高知県（柏島), 宇治群島, 大隅諸島（口永良部島, 種子島, 馬毛島, 屋久島), および奄美大島以南の琉球列島から記録されている（福田, 1996; 瀬能, 2013b; 桜井, 2014, 2019; 佐々木ほか, 2014; 吉野・瀬能, 2015; Motomura et al., 2016; Koeda et al., 2016; Motomura and Harazaki, 2017; 木村ほか, 2017; Nakae et al., 2018; 下瀬, 2021; Motomura, 2023; 本田ほか, 2024; 畠中ほか, 2025)。

本種の和歌山県における記録について, 福田（1996）は串本町から本種を報告しているが, この記録は目視観察に基づく記録であった。また, 瀬能（2013b）は本種の分布に和歌山県串本を含めたが, この記録は水中写真（KPM-NR 25943）に基づく記録であった（瀬能 宏氏, 私信）。他にも, 本種の分布に和歌山県を含む報告が散見されるが（例えば, 桜井, 2014; 吉野・瀬能, 2015; 木村ほか,

2017), 本種の本県からの標本に基づく記録は見当たらない。したがって, 今回得られた標本は本種の標本に基づく和歌山県からの初記録となる。

備考 和歌山県産の標本は, 有藻性サンゴ類が点在する岩礁の亀裂内から採集された。本種は成長すると体長 100 cm に達する大型のハタ科魚類であるが（瀬能, 2013b), 今回得られた標本は体長 82.8 mm の幼魚であった。また, 福田（1996）と瀬能（2013b）により報告された個体は, 前者は幼魚であったと報告されており, 後者は体の地色が白色で, 体側に 4 本の濃褐色横帯があること, 各鰭が黄色で, 胸鰭基底に濃褐色斑があることから本種の幼魚であると判断された（瀬能, 2013b; 桜井, 2014）。これまで和歌山県では成魚が確認されていないことや, 日本国内における分布の中心が琉球列島であることなどから, 本県沿岸における出現は黒潮により南方域から偶発的に輸送されてきた個体であると考えられる。

フサカサゴ科 Scorpaenidae

Scorpaenopsis ramaraoi Randall and Eschmeyer, 2002

イヌカサゴ (Fig. 3C)

標本 WMNH-PIS 14608, 体長 132.4 mm, 東牟婁郡串本町大島 大島港 (33°28'14"N, 135°48'06"E), 水深 0.2 m, タモ網, 2025 年 9 月 16 日, 寺町幸音・寺町早紀; WMNH-PIS 14609, 体長 145.2 mm, 東牟婁郡串本町大島 大島港 (33°28'14"N, 135°48'06"E), 水深 0.2 m, タモ網, 2025 年 9 月 30 日, 寺町幸音・寺町早紀; WMNH-PIS 14610, 体長 145.7 mm, 東牟婁郡串本町大島 大島港 (33°28'14"N, 135°48'06"E), 水深 0.6 m, タモ網, 2025 年 11 月 3 日, 寺町幸音・寺町早紀.

同定 和歌山県産の標本は, 背鰭が 12 棘 9 軟条, 側線上方横列鱗数が 45–49, 口蓋骨に歯がないこと, 涙骨隆起の先端が尖り, 皮膚に埋没しないこと, 眼隔域中央隆起が発達すること, 眼後棘内側の耳棘前方に棘がないこと, 後頭窩前縁の隆起が背面からみて後方に湾入すること, および主鰓蓋骨上方棘の後端が単尖頭であることが本村ほか (2004) と中坊・甲斐 (2013) の示したイヌカサゴ *S. ramaraoi* の特徴に一致したため, 本種に同定された.

分布 本種はインド・西太平洋に広く分布し (Randall and Eschmeyer, 2002; 本村ほか, 2004), 日本国内では伊豆半島以南の太平洋沿岸, 鹿児島県本土, 甌島列島 (上甌島), 大隅諸島 (硫黄島, 口永良部島, 馬毛島, 屋久島), トカラ列島, 奄美群島 (奄美大島, 喜界島, 徳之島, 与論島), 沖縄諸島 (沖縄島), および八重山諸島 (石垣島, 西表島) から記録されている (本村ほか, 2004; 高木ほか, 2010; 中坊・甲斐, 2013; 本村, 2013, 2014, 2017, 2018, 2019, 2022; 岩坪ほか, 2014; Motomura and Harazaki, 2017; Iwatsuki et al., 2017; 木村ほか, 2017; Nakae et al., 2018; Mochida and Motomura, 2018; Fujiwara and Motomura, 2020; 村瀬ほか, 2021, 2023; Jeong and Motomura, 2021; 津野ほか, 2022; Motomura, 2023; Koreeda and Motomura, 2025; 阿部, 2025). 本研究により新たに和歌山県から記録された.

備考 和歌山県産の 3 標本は, 夜間に漁港内の岸壁から採集された.

Sebastapistes cyanostigma (Bleeker, 1856)

カスリフサカサゴ (Fig. 3D)

標本 WMNH-PIS 14611, 体長 48.9 mm, 東牟婁郡串本町有田 串本海中公園センター地先 (33°28'51"N, 135°44'45"E), 水深 1.5 m, タモ網, 2025 年 8 月 15 日, 佐久間夢実; WMNH-PIS 14612, 体長 27.8 mm, 東牟婁郡串本町有田 串本海中公園センター地先 (33°28'46"N, 135°44'47"E), 水深 6 m, タモ網, 2025 年 9 月 19 日, 大西 遼.

同定 和歌山県産の標本は, 額棘がないこと, 眼下骨系の棘が 1 本であること, 涙骨下縁に 4 本の棘をもつこと, 口蓋骨に歯があること, 胸鰭上半部の軟条が分枝すること, 胸鰭基底付近は皮膚と櫛鱗に被われること, および鰭膜に褐色斑をもたないことが中坊・甲斐 (2013) や本村 (2014) の示したカスリフサカサゴ *S. cyanostigma* の特徴に一致したため, 本種に同定された.

分布 本種はインド・西太平洋に広く分布し (本村, 2014), 日本国内では伊豆諸島 (八丈島), 小笠原諸島, 静岡県, 高知県 (柏島), 宮崎県, 大隅諸島 (口永良部島, 屋久島), 奄美群島 (奄美大島, 喜界島, 沖永良部島, 与論島), 沖縄諸島 (伊江島, 瀬底島), 慶良間諸島 (渡嘉敷島), 宮古諸島 (伊良部島), 八重山諸島 (西表島, 与那国島), および大東諸島 (南大東島) から記録されている (石田, 1997; 吉郷・中村, 2002, 2003; 吉郷, 2004; Senou et al., 2006a, 2007; 中坊・甲斐, 2013; 本村, 2014; Koeda et al., 2016; Motomura and Harazaki, 2017; 木村ほか, 2017; Nakae et al., 2018; Motomura and Uehara, 2020; Fujiwara and Motomura, 2020; 田中ほか, 2020; 本田ほか, 2024; 中村ほか, 2024). 本研究により新たに和歌山県から記録された.

備考 和歌山県産の 2 標本は, 有藻性サンゴ類の枝内から採集された.

ゴンベ科 Cirrhitidae

Oxycirrhites typus Bleeker, 1857

クダゴンベ (Fig. 3E)

標本 WMNH-PIS 14688, 体長 65.1 mm, 東牟婁郡串本町 苗我島 (33°27'44"05N, 135°47'46"E), 水深 25 m, タモ網, 2026 年 7 月 23 日, 佐久間夢実.

同定 和歌山県産の標本は, 背鰭軟条数が 13, 吻が長く管状であること, 体高が著しく低いこと, および体側にマス目模様の斑紋があることが Randall (1963) や林・萩原 (2013a) の示したクダゴンベ *O. typus* の特徴に一致したため, 本種に同定された.

分布 本種はインド・太平洋に広く分布し (林・萩原, 2013a; Allen and Erdmann, 2024), 日本国内では伊豆諸島 (伊豆大島, 八丈島), 小笠原諸島, 千葉県, 静岡県, 和歌山県串本, 高知県 (沖の島), 宮崎県, 鹿児島県本土, 大隅諸島 (硫黄島, 口永良部島, 屋久島), 奄美群島 (奄美大島, 沖永良部島), 沖縄諸島 (伊江島, 瀬底島, 沖縄島), 宮古諸島, および八重山諸島 (石垣島, 与那国島) から記録されている (落合・益田, 1974; 福田・御前, 1992a; 土屋ほか, 2005; Senou et al., 2006a, b, 2007; 伊藤, 2009; 林・萩原, 2013a; 目黒, 2013; 吉野・瀬能, 2015; Koeda et al., 2016; 小枝ほか, 2017; Motomura and Harazaki, 2017; Nakae et al., 2018; Motomura and Uehara, 2020; Jeong and Motomura,

2021；小枝，2022a；村瀬ほか，2023；榊井ほか，2026）。

本種の和歌山県における記録について，福田・御前（1992a）と土屋ほか（2005）は串本町から本種を報告しているが，この記録は前者が目視観察，後者が水中写真に基づく記録であった。したがって，今回得られた標本は本種の標本に基づく和歌山県からの初記録となる。

備考 和歌山県産の標本は，水深 25 m の岩礁帯に生息していたヤギ類の群体上から採集された。

ホカケトラギス科 Hemerocoetidae

Matsubaraea fusiformis (Fowler, 1943)

マツバラトラギス (Fig. 3F)

標本 WMNH-PIS 14615，体長 38.3 mm，東牟婁郡串本町橋杭 橋杭海水浴場 (33°28'58"N, 135°47'22"E)，水深 1 m，タモ網，2025 年 2 月 14 日，佐久間夢実。

同定 和歌山県産の標本は，吻端に棘がないこと，頭部が円筒形であること，第 1 背鰭棘数が 3，および第 2 背鰭の中央部がくぼむことが中坊・土居内（2013）の示したマツバラトラギス *M. fusiformis* の特徴に一致したため，本種に同定された。

分布 本種は西太平洋に分布し（Matsuura, 1991; Johnson, 1999），日本国内では青森県，新潟県，神奈川県，瀬戸内海，鳥取県，高知県，宮崎県，および鹿児島県本土から記録されている（Senta et al., 1989; Matsuura, 1991; Noichi et al., 1991；竹内ほか，2012；中坊・土居内，2013；須田ほか，2014；加藤ほか，2017；緒方・村瀬，2020；田代・藤原，2022；本田ほか，2024）。本研究により新たに和歌山県から記録された。

備考 和歌山県産の標本は，干潮時に砂浜海岸の水深 1 m から採集された。

フグ科 Tetraodontidae

Arothron immaculatus (Bloch and Schneider, 1801)

カスミフグ (Fig. 4A)

標本 WMNH-PIS 9948，体長 22.2 mm，田辺市芳養 芳養川河口 (33°44'57"N, 135°21'01"E)，水深 0.3 m，タモ網，2016 年 8 月 5 日，平嶋健太郎；WMNH-PIS 14620，体長 136.2 mm，東牟婁郡串本町串本 上浦海岸 (33°27'37"N, 135°46'30"E)，2025 年 2 月 28 日漂着，大西 遼。

同定 和歌山県産の標本は，体表の背面と腹面に小棘の分布域があること，鼻孔が 1 個で開口すること，背鰭軟条数が 10，臀鰭軟条数が 9，体に黒色点がないこと，および尾鰭には白色点と黒色点はなく後縁が黒いことが山田・柳下（2013b）の示したカスミフグ *A. immaculatus* の特徴に一致したため，本種に同定された。

分布 本種はインド・西太平洋に広く分布し（山田・柳下，2013b），日本国内では千葉県，静岡県（浜名湖），三重県，高知県，宮崎県，鹿児島県本土，および琉球列島から記録されている（伊佐ほか，2007；山田・柳下，2013b；霜村，2013；村瀬ほか，2019, 2021；山川ほか，2020；畑，2020, 2022；本田ほか，2024；岡田，2025）。本研究により新たに和歌山県から記録された。

備考 和歌山県産の標本のうち，WMNH-PIS 9948 は河川の河口域から，WMNH-PIS 14620 は海岸に死亡漂着したところを採集された。

近年，本種の分布は北上傾向にあることが知られている（山川ほか，2020）。今回得られた標本（WMNH-PIS 14620）は，体長 136.2 mm と小さくはない個体であったが，低水温期である 2 月（採集時の水温 17.8 °C）に死亡漂着したところを採集された。今回の漂着が水温の低下による衰弱死であるかは不明であるため，和歌山県における越冬の有無については今後も引き続き調査する必要がある。

Arothron reticularis (Bloch and Schneider, 1801)

ワモンフグ (Fig. 4B)

標本 WMNH-PIS 14621，体長 34.9 mm（採集時は体長約 15 mm），東牟婁郡串本町二色 鬪野川河口 (33°28'40"N, 135°46'30"E)，水深 1 m，タモ網，2025 年 8 月 22 日（2026 年 2 月 16 日まで飼育），佐久間夢実。

同定 和歌山県産の標本は，体表の背面と腹面に小棘の分布域があること，鼻孔が 1 個で開口すること，背鰭軟条数が 10，臀鰭軟条数が 10，頭部に流れ模様をもつこと，および尾鰭に白色斑が散在することが山田・柳下（2013b）の示したワモンフグ *A. reticularis* の特徴に一致したため，本種に同定された。

分布 本種は東インド・西太平洋に広く分布し（山田・柳下，2013b），日本国内では千葉県，兵庫県（播磨灘），高知県，山口県の日本海側，日向灘海域（大分県佐賀関から大隅半島東岸），鹿児島県本土，大隅諸島（屋久島），奄美群島（奄美大島，沖永良部島），沖縄諸島（沖縄島），および八重山諸島（石垣島，西表島）から記録されている（江口ほか，2008；山田・柳下，2013b; Iwatsuki et al., 2017；園山ほか，2020；小枝・今北，2020；赤池ほか，2021；是枝ほか，2022, 2025; Matsuura and Motomura, 2022；畑，2022；増田，2022；古橋ほか，2023；是枝・本村，2024）。本研究により新たに和歌山県から記録された。

備考 和歌山県産の標本は，干潮時に河川の河口域から採集された。今回採集された個体は，採集時の体長が約 15 mm の稚魚であったことや，本種のこれまでの分布を考慮すると，本県での出現は黒潮により南方域から偶発的に輸送されてきた個体であると考えられる。なお，本種の

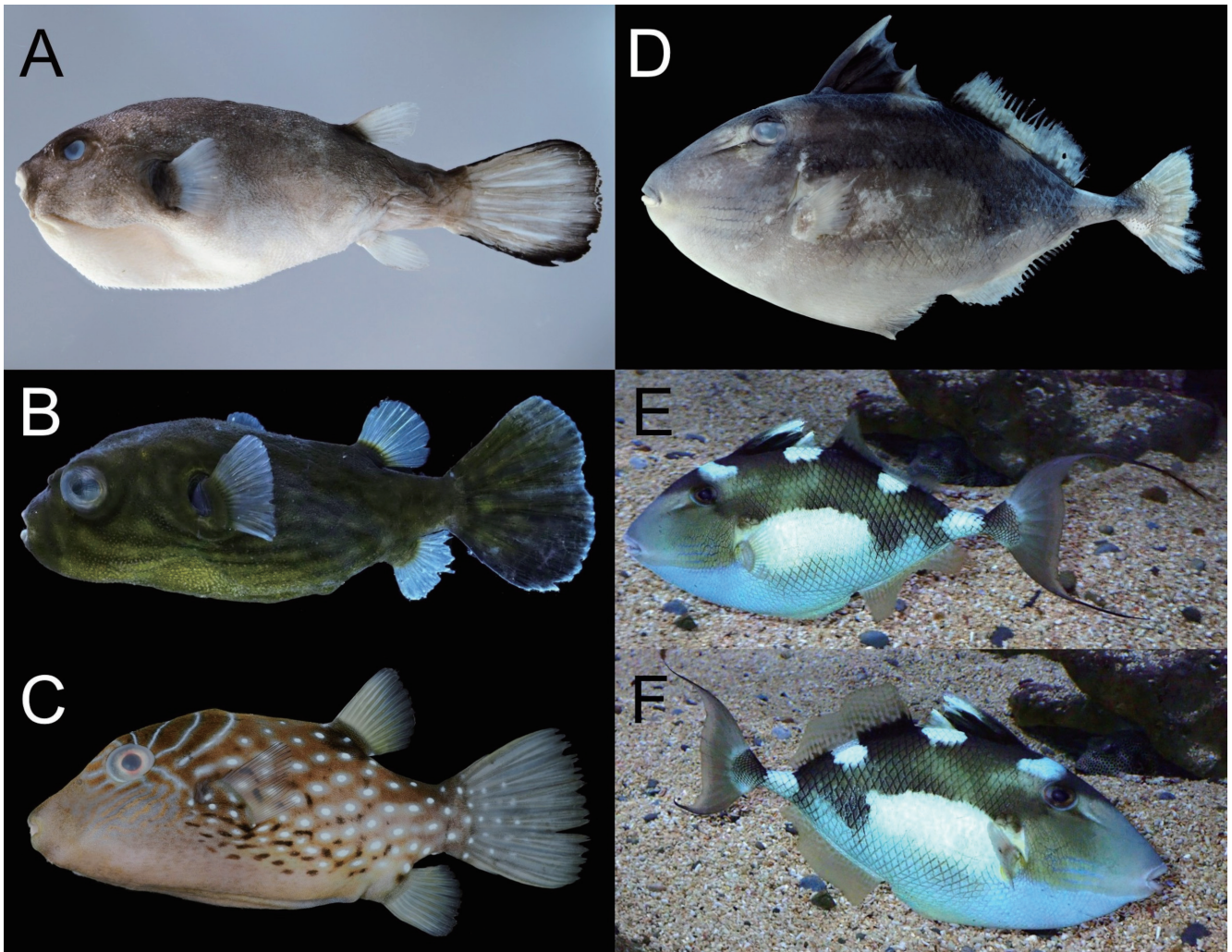


Fig. 4. Fresh specimens of *Arothron immaculatus* (A: WMNH-PIS 14620, 136.2 mm SL), *A. reticularis* (B: WMNH-PIS 14621, 34.9 mm SL), *Canthigaster amboinensis* (C: FAKU 212336, 29.6 mm SL), and *Abalistes filamentosus* (D: WMNH-PIS 14619, 224.7 mm SL), and a live individual of *A. filamentosus* (E, F: WMNH-PIS 14619) from Wakayama Prefecture, Japan.

温帯域における越冬の有無については現状不明とされているが（是枝・本村，2025），高知県や鹿児島県本土では大型個体も得られていることから（小枝・今北，2020；公益財団法人鹿児島市水族館公社，2018），本県においても今後より成長した個体が見られることが考えられるため，引き続き出現状況を注視していく必要がある。

***Canthigaster amboinensis* (Bleeker, 1864)**

ゴマフキンチャクフグ (Fig. 4C)

標本 FAKU 212336，体長 29.6 mm，西牟婁郡すさみ町見老津（33°30′43″N, 135°34′35″E），水深 0.3 m，タモ網，2025 年 11 月 9 日，田邊晃一。

同定 和歌山県産の標本は，腹部に一大黒斑がないこと，体側に暗色鞍状斑と縦帯がないこと，尾鰭に波状紋がないこと，背鰭軟条数が 12，臀鰭軟条数が 11，頭部や腹側，および尾鰭後部に淡青と白色点がないことが山田・柳下（2013b）の示したゴマフキンチャクフグ *C. amboinensis* の特徴に一致したため，本種に同定された。

分布 本種はインド・太平洋に広く分布し（松浦，2014a），日本国内では伊豆諸島，千葉県，大隅諸島（屋久島），および奄美大島以南の琉球列島から記録されている（松浦，2014a, 2019a; Koeda et al., 2016; Motomura and Hara-zaki, 2017; Nakae et al., 2018; Mochida and Motomura, 2018; Motomura and Uehara, 2020; Fujiwara and Motomura, 2020；本田ほか，2024；和田ほか，2025）。本研究により新たに和歌山県から記録された。

備考 和歌山県産の標本は，干潮時に岩礁海岸のタイドプール内から採集された。本種は全長 14 cm に達することが知られているが（松浦，2014a），本標本は体長 29.6 mm の幼魚であった。また，本種の国内における分布の中心が琉球列島であることや，本州沿岸では黒潮流域である千葉県と和歌山県の 2 例の出現記録しかないことを考慮すると（本田ほか，2024；本研究），本標本は黒潮により南方域から偶発的に輸送されてきた個体であると考えられる。

モンガラカワハギ科 Balistidae

Abalistes filamentosus* Matsuura and Yoshino, 2004*イトヒキオキハギ** (Fig. 4D, E, F)

標本 WMNH-PIS 14619, 体長 224.7 mm, 東牟婁郡串本町 双島沖 (33°28'56"N, 135°41'45"E), 水深 20 m, 釣り, 2025 年 10 月 27 日(2025 年 12 月 21 日まで飼育), 金井一祥.

同定 和歌山県産の標本は, 鰓孔後部に骨質の肥大鱗があること, 眼前に 1 縦溝があること, 頬に 3 本の縦溝があること, 両顎歯の大きさは不同で, 欠刻があること, 尾柄が縦扁し細長いこと, 背鰭第 3 棘は著しく小さくなく明瞭であること, 尾鰭が糸状に伸長すること, および体に黄色点や青白点をもたないことが Matsuura and Yoshino (2004) と林・萩原 (2013b) の示したイトヒキオキハギ *A. filamentosus* の特徴に一致したため, 本種に同定された.

分布 本種は日本からオーストラリア北部, ニューカレドニアにかけての西太平洋に分布し (松浦, 2014b), 日本国内では伊豆諸島 (御蔵島), 静岡県, 鹿児島県本土, 甕島列島 (中甕島), 大隅諸島 (馬毛島), トカラ列島 (小臥蛇島), 奄美群島 (奄美大島, 与論島), 沖縄諸島 (沖縄島), および八重山諸島から記録されている (Matsuura and Yoshino, 2004; 林・萩原, 2013b; 松浦, 2014b, 2019b; 岩坪, 2017; Nakae et al., 2018; 下瀬, 2021; 小枝, 2022b; 古橋・本村, 2022; Motomura, 2023; Koreeda and Motomura, 2025; 和田ほか, 2025; 中西・渋川, 2026). 本研究により新たに和歌山県から記録された.

備考 和歌山県産の標本は, 水深 20 m の砂底から採集された.

謝 辞

串本町在住の寺町幸音氏, 寺町早紀氏, 織部啓三郎氏, Akamatsu Diver's の赤松佳樹氏, 琉球大学理学部の脇本総志氏には貴重な標本を寄贈していただいた. 串本海中公園センターの皆さまには採集と飼育にご協力いただいた. 京都大学総合博物館の藤原恭司氏には標本の作製・撮影・登録についてご助言とご協力をいただいた. 神奈川県立生命の星・地球博物館の瀬能 宏氏にはコクハンアラの分布に関する情報をご提供いただいた. また, 同館の和田英敏氏には写真資料の使用許可をいただいた. すさみ町立エビとカニの水族館の平井厚志氏にはミナミアカシタビラメの採集状況についてご教示いただいた. 京都大学農学部地域環境工学科の吉田奈央氏には文献調査にご協力いただいた. 匿名の査読者には原稿に対して有益な助言をいただいた. 以上の方々にこの場を借りて厚く御礼申し上げる.

引用文献

- 阿部公哉. 2025. イヌカサゴ, p. 316. 木村清志・笹木大地 (編) 美しい国の魚たち 三重県の魚類図鑑. 木村清志, 伊勢.
- 藍澤正宏・土居内 龍. 2013. イソギンボ科, pp. 1295–1324, 2101–2105. 中坊徹次 (編) 日本産魚類検索 全種の同定. 第 3 版. 東海大学出版会, 秦野.
- 赤池貴大・藤原恭司・上原航知・松岡 翠・藤井琢磨・ジョン ビョル・松本達也・中川龍一・緒方僚輝・是枝伶旺・古橋龍星・望月健太郎・飯野友香・出羽優風・石原祥太郎・本村浩之. 2021. 標本に基づく琉球列島初記録を含む沖縄永良部島初記録の魚類 66 種, およびサザンプラティフィッシュの島内における新産地とカワアナゴ属の一種の形態学的特徴. *Ichthy, Natural History of Fishes of Japan*, 13: 18–35.
- 明仁・坂本勝一・池田祐二・藍澤正宏. 2013. ハゼ亜目, pp. 1347–1608, 2109–2211. 中坊徹次 (編) 日本産魚類検索 全種の同定. 第 3 版. 東海大学出版会, 秦野.
- Allen, G. R. and M. V. Erdmann. 2024. Reef fishes of the East Indies. Second edition. Vols. 1–3. Tropical Reef Research, Perth. xvi + 1468 pp.
- 荒賀忠一・田名瀬英朋. 1966. 和歌山県の浅海魚類, pp. 81–95. 日本自然保護協会 (編) 日本自然保護協会調査報告 第 27 号. 和歌山県海中公園学術調査報告. 日本自然保護協会, 東京.
- 荒尾一樹・玉井隆章. 2011. 愛知県一色漁港に水揚げされた魚類. 豊橋市立自然史博物館研究報告, 21: 17–26.
- Dawson, C. E. 1976. Review of the Indo-Pacific pipefish genus *Choeroichthys* (Pisces: Syngnathidae), with descriptions of two new species. *Proceedings of the Biological Society of Washington*, 89: 39–65.
- Dawson, C. E. 1985. Indo-Pacific pipefishes (Red Sea to the Americas). *The Gulf Coast Research Laboratory, Ocean Springs*. vi + 230 pp.
- 道津喜衛. 1958. シラヌヒハゼの生態・生活史. 九州大学農学部学藝雑誌, 16: 427–432.
- 江口勝久・中島 淳・西田高志・乾 隆帝・中谷祐也・鬼倉徳雄・及川 信. 2008. 宮崎県北川の魚類相. 九州大学大学院農学研究学芸雑誌, 63: 15–25.
- Fujiwara, K. and H. Motomura. 2020. An annotated checklist of marine and freshwater fishes of Kikai Island in the Amami Islands, Kagoshima, southern Japan, with 259 new records. *Bulletin of the Kagoshima University Museum*, 14: 1–73.
- 福田照雄. 1996. 海中展望塔に集まる魚 (19) 1995 年 1 月～12 月. 串本海中公園マリンバビリオン, 25: 26–27.
- 福田照雄・小寺昌彦. 2019. 海中展望塔に集まる魚 40 年間のまとめ. 串本海中公園マリンバビリオン, 8: 1–14.
- 福田照雄・御前 洋. 1992a. 串本海中公園センターで記録された魚類一覧 (1). 串本海中公園マリンバビリオン, 21: 26–29.
- 福田照雄・御前 洋. 1992b. 串本海中公園センターで記録された魚類一覧 (2). 串本海中公園マリンバビリオン, 21: 32–33.
- 福井正二郎. 1999. 紀州・熊野採集 日本魚類図譜. はる書房, 東京. 335 pp.
- 古橋龍星・赤池貴大・是枝伶旺・橋本慎太郎・樋口聡文・金井聖弥・潮上太郎・中村亮太・清水直人・本村浩之. 2024. 与那国島から得られた魚類 43 種の記録. *Ichthy, Natural History of Fishes of Japan*, 47: 9–20.
- 古橋龍星・是枝伶旺・本村浩之. 2023. 大隅諸島の種子島と屋久島から得られた淡水・汽水性魚類 15 種の記録. *Ichthy, Natural History of Fishes of Japan*, 29: 20–33.
- 古橋龍星・本村浩之. 2022. トカラ列島の無人島, 臥蛇島と小臥蛇島における魚類 57 種の記録. *Ichthy, Natural History of Fishes of Japan*, 23: 7–18.
- 萩原清司. 2022. 横須賀市自然・人文博物館所蔵魚類資料目録 (V) 横須賀市自然・人文博物館及び相模湾海洋生物研究会収集奄美群島産魚類資料目録. 横須賀市博資料集, 46: 1–127, pls. 1–4.
- 萩原清司・木村喜芳. 2005. 横須賀市自然・人文博物館所蔵魚類資料目録 (IV) —相模湾海洋生物研究会収集館山湾波佐間産魚類目録—. 横須賀市博物館資料集, 29: 1–34, pls. 1–8.
- 畑 晴陵. 2020. カスミフグ, p. 569. 小枝圭太・畑 晴陵・山田守彦・本村浩之 (編) 大隅市場魚類図鑑. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島.

- 畑 晴陵. 2022. フグ科, pp. 305–311. 岩坪洗樹・伊東正英・山田守彦・本村浩之(編) 薩摩半島沿岸の魚類. 鹿児島水圏生物博物館, 枕崎・鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島.
- 畠中柚菜・中村潤平・土田洋之・松岡 翠・松本達也・古橋龍星・是枝伶旺・出羽優風・橋本慎太郎・畑瑛之郎・金井聖弥・佐藤智水・吉田卓史・有馬雄太・檜垣健介・池袋日香莉・栗山顕太・松村優花・本村浩之. 2025. 宇治群島から得られた初記録の魚類 73 種, および宇治群島周辺海域産魚類リスト. *Ichthy, Natural History of Fishes of Japan*, 56: 8–30.
- 波戸岡清峰. 1997. ヘリゴイシウツボ, p. 72–73. 岡村 収・尼岡邦夫(編) 山溪カラー名鑑 日本の海水魚. 山と溪谷社, 東京.
- 波戸岡清峰. 2013a. ウツボ科, pp. 244–261, 1786–1792. 中坊徹次(編) 日本産魚類検索 全種の同定. 第3版. 東海大学出版会, 秦野.
- 波戸岡清峰. 2013b. ヘリゴイシウツボ, p. 8. 本村浩之・出羽慎一・古田和彦・松浦啓一(編) 鹿児島県三島村 — 硫黄島と竹島の魚類. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島・国立科学博物館, つくば.
- 林 公義. 2013. テンジクダイ科, pp. 826–864, 1979–1986. 中坊徹次(編) 日本産魚類検索 全種の同定. 第3版. 東海大学出版会, 秦野.
- 林 公義・萩原清司. 2013a. ゴンベ科, pp. 1018–1021, 2029–2030. 中坊徹次(編) 日本産魚類検索 全種の同定. 第3版. 東海大学出版会, 秦野.
- 林 公義・萩原清司. 2013b. モンガラカワハギ科, pp. 1703–1711, 2235–2236. 中坊徹次(編) 日本産魚類検索 全種の同定. 第3版. 東海大学出版会, 秦野.
- 林 公義・工藤孝浩. 1993. 相模湾から初記録のシラヌイハゼ. 神奈川自然誌資料, 13: 39–42.
- Herald, E. S. and J. E. Randall. 1972. Five new Indo-Pacific pipefishes. *Proceedings of the California Academy of Sciences*, 4th Series, 39: 121–140.
- 日比野友亮. 2019. ウツボ科, pp. 22–27. 本村浩之・萩原清司・瀬能 宏・中江雅典(編) 奄美群島の魚類図鑑. 南日本新聞開発センター, 鹿児島.
- 日比野友亮・宮本 圭・桜井 雄・木村清志. 2021. 琉球列島における 2016 年 1 月の大寒波に伴い打ち上げられた 2 種の日本初記録種を含む海産ウナギ目魚類. 北九州市立自然史・歴史博物館研究報告 A 類自然史, 19: 13–26.
- 日比野友亮・中島 淳・乾 隆帝・鬼倉徳雄・安武由矢. 2025. 文献に基づく福岡県産魚類の目録, および標本に基づく種同定の訂正. 北九州市立自然史・歴史博物館研究報告 A 類(自然史), 23: 1–93.
- 平嶋健太郎. 2022. 魚類の概要, pp. 138–139. 和歌山県環境生活部環境政策局 環境生活総務課自然環境室(編) 保全上重要なわかやまの自然 — 和歌山県レッドデータブック — [2022 年改訂版]. 和歌山県環境生活部環境政策局 環境生活総務課自然環境室, 和歌山.
- 本田康介・瀬能 宏・和田英敏. 2024. 相模湾産魚類目録(改訂). 神奈川県立博物館研究報告(自然科学), 53: 127–218.
- 本間義治・水沢六郎・沖山宗雄. 1972. 新潟県魚類目録補訂 (IX). 日本生物地理学会会報, 28: 47–57.
- 池田博美・中坊徹次. 2015. 南日本太平洋沿岸の魚類. 東海大学出版部, 秦野. xxii + 597 pp.
- 伊佐正樹・石川晃寛・加藤正洋・町田吉彦. 2007. カスミフグの北限記録(フグ目フグ科). 四国自然史科学研究, 4: 51–53.
- 石田 実. 1997. カスリフサカサゴ, p. 198. 岡村 収・尼岡邦夫(編) 山溪カラー名鑑 日本の海水魚. 山と溪谷社, 東京.
- 伊藤勝敏. 2009. 海中大図鑑 沖縄の海. データハウス, 東京. 457 pp.
- 岩坪洗樹. 2017. モンガラカワハギ科, pp. 274–275. 岩坪洗樹・本村浩之(編) 火山を望む甕海 鹿児島湾の魚類. 鹿児島水圏生物博物館, 鹿児島・鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島.
- 岩坪洗樹・加藤 紳・本村浩之. 2014. 鹿児島県南九州市頰娃町番所鼻自然公園地先の魚類リスト. *Nature of Kagoshima*, 40: 81–94.
- Iwatsuki, Y., H. Nagino, F. Tanaka, H. Wada, K. Tanahara, M. Wada, H. Tanaka, K. Hidaka and S. Kimura. 2017. Annotated checklist of marine and freshwater fishes in the Hyuga Nada area, southwestern Japan. *Bulletin of the Graduate School of Bioresources, Mie University*, 43: 27–55.
- Jeong, B. and H. Motomura. 2021. An annotated checklist of marine and freshwater fishes of five Islands of Mishima in the Osumi Islands, Kagoshima, southern Japan, with 109 new records. *Bulletin of the Kagoshima University Museum*, 16: 1–116.
- Johnson, J. W. 1999. Annotated checklist of the fishes of Moreton Bay, Queensland, Australia. *Memoirs of the Queensland Museum*, 43: 709–762.
- 鍋木紘一. 2016. 種子島の釣魚図鑑. たましだ舎, 西之表. 157 pp.
- 甲斐嘉晃・御所豊穂. 2025. 紀伊大島檜野・定置網の魚. 弁天前水産株式会社, 串本・京都大学フィールド科学教育研究センター, 京都. 112 pp.
- 浦原稔治. 1950. 土佐及び紀州の魚類. 高知県文教協会, 高知. 3 + 288 + 5 + 48 + 26 pp.
- 加藤めい子・須田有輔・南條楠土. 2017. 開放的な砂浜海岸である鹿児島県吹上浜のサーフゾーンの仔稚魚群集と地形動態的な生態環境条件. 水産大学校研究報告, 65: 121–130.
- 川間公達. 2019. イソギンボ科, pp. 312–326. 本村浩之・萩原清司・瀬能 宏・中江雅典(編) 奄美群島の魚類図鑑. 南日本新聞開発センター, 鹿児島.
- 川崎颯翔. 2026. 山口県宇部市におけるシラヌイハゼの記録. 豊田ホテルの里ミュージアム研究報告書, 18: 111–112.
- 木村祐貴・日比野友亮・三木涼平・峯 健・小枝圭太(編). 2017. 緑の火山島 口永良部島の魚類図鑑. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島. 200 pp.
- 小枝圭太. 2022a. ゴンベ科, pp. 170–171. 岩坪洗樹・伊東正英・山田守彦・本村浩之(編) 薩摩半島沿岸の魚類. 鹿児島水圏生物博物館, 枕崎・鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島.
- 小枝圭太. 2022b. モンガラカワハギ科, pp. 296–297. 岩坪洗樹・伊東正英・山田守彦・本村浩之(編) 薩摩半島沿岸の魚類. 鹿児島水圏生物博物館, 枕崎・鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島.
- Koeda, K., Y. Hibino, T. Yoshida, Y. Kimura, R. Miki, T. Kunishima, D. Sasaki, T. Furukawa, M. Sakurai, K. Eguchi, H. Suzuki, T. Inaba, T. Uejo, S. Tanaka, M. Fujisawa, H. Wada and T. Uchiyama. 2016. Annotated checklist of fishes of Yonaguni-jima island, the westernmost island in Japan. *Kagoshima University Museum, Kagoshima*. vi+ 120 pp.
- 小枝圭太・今北大介. 2020. 四国初記録のフグ科の稀種ワモンフグ. *Kuroshio Biosphere*, 17: 18–21.
- 小枝圭太・木村祐貴・本村浩之. 2017. 口永良部島から採集されたクダゴンベの記録. *Nature of Kagoshima*, 43: 181–184.
- 是枝伶旺・古橋龍星・橋本慎太郎・清水直人・出羽優風・本村浩之. 2025. 石垣島初記録の魚類 11 種. *Ichthy, Natural History of Fishes of Japan*, 55: 15–22.
- 是枝伶旺・古橋龍星・久木田直斗・本村浩之. 2022. 薩摩半島から得られた九州初記録 10 種を含む, 鹿児島県本土初記録の暖水性魚類 16 種. *Ichthy, Natural History of Fishes of Japan*, 17: 20–38.
- 是枝伶旺・松本達也・古橋龍星・橋本慎太郎・出羽優風・佐藤智水・金井聖弥・栗山顕太・久保田雄斗・畠中柚菜・前田知範・本村浩之. 2026. 種子島から得られた魚類 19 種. *Ichthy, Natural History of Fishes of Japan*, 68: 5–19.
- 是枝伶旺・本村浩之. 2024. 奄美大島初記録のワモンフグ. *Ichthy, Natural History of Fishes of Japan*, 40: 22–27.
- 是枝伶旺・本村浩之. 2025. 鹿児島県南さつま市大浦川河口におけるシラヌイハゼの出現状況と本種の産卵巣周辺に確認された溝構造. 水生動物, 2025: AA2025-44.
- Koreeda R. and H. Motomura. 2025. An annotated checklist of marine and freshwater fishes of the Koshiki Islands and adjacent waters, Kagoshima, southern Japan, with 353 new records. *Bulletin of the Kagoshima University Museum*, 21: 1–119.
- 小寺昌彦. 2013. 海中展望塔に集まる魚 (37) 2012 年 1 月～12 月. 串本海中公園マリンバビロン, 42: 4–5.
- 公益財団法人鹿児島市水族館公社. 2018. 鹿児島水族館が確認した鹿児島県の定置網の魚たち. 増訂版. 公益財団法人鹿児島市水族館公社, 鹿児島. 335 pp.
- 久保敦暉・津守優太・淀 太我. 2026. キオビスズメダイの三重県からの初記録および和歌山県からの標本に基づく初記録. *Ichthy, Natural History of Fishes of Japan*, 63: 25–28.
- 工藤孝浩・山田和彦・三井翔太・門田高太・瀬能 宏. 2022. 三浦半島南西岸魚類目録. 神奈川自然誌資料, 43: 97–142.

- Mabuchi, K., T. H. Fraser, H. Y. Song, Y. Azuma and M. Nishida. 2014. Revision of the systematics of the cardinalfishes (Percomorpha: Apogonidae) based on molecular analyses and comparative reevaluation of morphological characters. *Zootaxa*, 3846: 151–203.
- 馬淵浩司・吉田朋弘. 2018. テンジクダイ科. pp. 248–253. 中坊徹次 (編). 小学館の図鑑Z 日本魚類館. 小学館, 東京.
- 増田 修. 2022. 近年確認された播磨灘の珍客たち. やまのうえのさかなたち 姫路市立水族館だより, 77: 2–4.
- 榊井拓馬・石黒尚吾・金子哲平・小枝圭太. 2026. 標本に基づく沖縄島初記録のゴンベ科魚類クダゴンベ *Oxycirrhites typus*. *Kuroshio Biosphere*, 23: 27–35.
- Matsui, S., R. Inui and Y. Kai. 2014. Annotated checklist of gobioid fishes (Perciformes, Gobioidae) from Wakasa Bay, Sea of Japan. *Bulletin of the Osaka Museum of Natural History*, 68: 1–25.
- 松沼瑞樹. 2014. チゴヨウジ, p. 103. 本村浩之・松浦啓一 (編) 奄美群島最南端の島 — 与論島の魚類. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島・国立科学博物館, つくば.
- 松沼瑞樹. 2019. ヨウジウオ科, pp. 56–60. 本村浩之・萩原清司・瀬能 宏・中江雅典 (編) 奄美群島の魚類図鑑. 南日本新聞開発センター, 鹿児島.
- Matsuura, K. 1991. The percophid fish, *Matsubaraea setouchiensis*, a junior synonym of *Matsubaraea fusiformis*. *Japanese Journal of Ichthyology*, 38: 61–62.
- 松浦啓一. 2014a. ゴマフキンチャクフダ, p. 616. 本村浩之・松浦啓一 (編) 奄美群島最南端の島 — 与論島の魚類. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島・国立科学博物館, つくば.
- 松浦啓一. 2014b. イトヒキオキハギ, p. 592. 本村浩之・松浦啓一 (編) 奄美群島最南端の島 — 与論島の魚類. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島・国立科学博物館, つくば.
- 松浦啓一. 2019a. フゲ科, pp. 416–419. 本村浩之・萩原清司・瀬能 宏・中江雅典 (編) 奄美群島の魚類図鑑. 南日本新聞開発センター, 鹿児島.
- 松浦啓一. 2019b. モンガラカワハギ科, pp. 406–411. 本村浩之・萩原清司・瀬能 宏・中江雅典 (編) 奄美群島の魚類図鑑. 南日本新聞開発センター, 鹿児島.
- Matsuura, K. and H. Motomura. 2022. Identification guide to pufferfishes (Tetraodontidae, Tetraodontiformes) of the South China Sea. *Kagoshima University Museum*, Kagoshima. 40 pp.
- Matsuura, K. and T. Yoshino. 2004. A new triggerfish of the genus *Abalistes* (Tetraodontiformes: Balistidae) from the western Pacific. *Records of the Australian Museum*, 56: 189–194.
- 目黒昌利. 2013. クダゴンベ, pp. 211–212. 本村浩之・出羽慎一・古田和彦・松浦啓一 (編) 鹿児島県三島村 — 硫黄島と竹島の魚類. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島・国立科学博物館, つくば.
- Mochida, I. and H. Motomura. 2018. An annotated checklist of marine and freshwater fishes of Tokunoshima island in the Amami Islands, Kagoshima, southern Japan, with 214 new records. *Bulletin of the Kagoshima University Museum*, 10: 1–80.
- 百瀬 樹・尾山大知. 2024. 房総半島から得られた暖水性魚類 8 種の記録. *Ichthy, Natural History of Fishes of Japan*, 49: 35–48.
- 百瀬 樹・尾山大知. 2026. 伊豆半島西岸から得られた静岡県初記録を含むハゼ亜目魚類 4 種の記録. *Ichthy, Natural History of Fishes of Japan*, 65: 1–17.
- 本村浩之. 2013. イヌカサゴ, p. 60. 本村浩之・出羽慎一・古田和彦・松浦啓一 (編) 鹿児島県三島村 — 硫黄島と竹島の魚類. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島・国立科学博物館, つくば.
- 本村浩之. 2014. イヌカサゴ, カスリフサカサゴ, pp. 131–132. 本村浩之・松浦啓一 (編) 奄美群島最南端の島 — 与論島の魚類. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島・国立科学博物館, つくば.
- 本村浩之. 2017. イヌカサゴ, p. 96. 岩坪洗樹・本村浩之 (編) 火山を望む甕海 鹿児島湾の魚類. 鹿児島水圏生物博物館, 鹿児島・鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島.
- 本村浩之. 2018. イヌカサゴ, pp. 212–213. 中坊徹次 (編) 小学館の図鑑Z 日本魚類館. 小学館, 東京.
- 本村浩之. 2019. フサカサゴ科 (フサカサゴ亜科), pp. 70–78. 本村浩之・萩原清司・瀬能 宏・中江雅典 (編) 奄美群島の魚類図鑑. 南日本新聞開発センター, 鹿児島.
- 本村浩之. 2022. フサカサゴ科, pp. 71–81. 岩坪洗樹・伊東正英・山田守彦・本村浩之 (編) 薩摩半島沿岸の魚類. 鹿児島水圏生物博物館, 枕崎・鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島.
- Motomura, H. 2023. An annotated checklist of marine and freshwater fishes of Tanega-shima and Mage-shima Islands in the Osumi Islands, Kagoshima, southern Japan, with 536 new records. *Bulletin of the Kagoshima University Museum*, 20: 1–250.
- 本村浩之. 2026. 日本産魚類全種目録. これまでに記録された日本産魚類全種の現在の標準和名と学名. Online ver. 41. [URL](#)
- Motomura, H., A. Habano, Y. Arita, M. Matsuoka, K. Furuta, K. Koeda, T. Yoshida, Y. Hibino, B. Jeong, S. Tashiro, H. Hata, Y. Fukui, K. Eguchi, T. Inaba, T. Uejo, A. Yoshiura, Y. Ando, Y. Haraguchi, H. Senou and K. Kuriwa. 2016. The ichthyofauna of the Uji Islands, East China Sea: 148 new records of fishes with notes on biogeographical implications. *Memoirs of the Faculty of Fisheries, Kagoshima University*, 64: 10–34.
- Motomura, H. and S. Harazaki. 2017. Annotated checklist of marine and freshwater fishes of Yaku-shima Island in the Osumi Islands, Kagoshima, southern Japan, with 129 new records. *Bulletin of the Kagoshima University Museum*, 9: 1–183.
- Motomura, H. and K. Uehara. 2020. An annotated checklist of marine and freshwater fishes of Okinoerabu Island in the Amami Islands, Kagoshima, southern Japan, with 361 new records. *Bulletin of the Kagoshima University Museum*, 12: 1–125.
- 本村浩之・吉野哲夫・高村直人. 2004. 日本産フサカサゴ科オニカサゴ属魚類 (*Scorpaenidae: Scorpaenopsis*) の分類学的検討. 魚類学雑誌, 51: 89–115.
- 村瀬敦宜・三木涼平・和田正昭・瀬能 宏 (編). 2019. 宮崎県の魚のまち 門川の魚図鑑. 宮崎大学農学部附属フィールド科学教育研究センター延岡フィールド, 延岡. 208 pp.
- 村瀬敦宜・緒方悠輝也・山崎裕太・三木涼平・和田正昭・瀬能 宏 (編). 2021. 新・門川の魚図鑑: ひむかの海の魚たち. 宮崎大学農学部附属フィールド科学教育研究センター延岡フィールド, 延岡. 358 pp.
- 村瀬敦宜・渋谷風雅・長友伸二郎・緒方悠輝也・大衛亮正・本村浩之・瀬能 宏. 2023. 水中写真に基づく宮崎県南部沿岸域の魚類相とその生物地理学的組成. *Ichthy, Natural History of Fishes of Japan*, 33: 33–114.
- 中坊徹次・土居内 龍. 2013. ホカケトラギス科, pp. 1265–1268, 2091–2092. 中坊徹次 (編) 日本産魚類検索 全種の同定. 第3版. 東海大学出版会, 秦野.
- 中坊徹次・甲斐嘉晃. 2013. フサカサゴ科, pp. 683–705, 1939–1946. 中坊徹次 (編) 日本産魚類検索 全種の同定. 第3版. 東海大学出版会, 秦野.
- 中坊徹次・中山耕至. 2013. 魚類概説, pp. 3–30. 中坊徹次 (編) 日本産魚類検索 全種の同定. 第3版. 東海大学出版会, 秦野.
- Nakae, M., H. Motomura, K. Hagiwara, H. Senou, K. Koeda, T. Yoshida, S. Tashiro, B. Jeong, H. Hata, Y. Fukui, K. Fujiwara, T. Yamakawa, M. Aizawa, G. Shinohara and K. Matsuura. 2018. An annotated checklist of fishes of Amami-oshima Island, the Ryukyu Islands, Japan. *Memoirs of the National Museum of Nature and Science, Tokyo*, 52: 205–361.
- 中村潤平・柏木伸幸・西田和記・堀江 諒・本村浩之. 2024. 鹿児島湾内に位置するかごしま水族館の屋外生物展示水域「イルカ水路」の魚類相. *Ichthy, Natural History of Fishes of Japan*, 50: 26–55.
- 中村潤平・本村浩之. 2022. ハタ科 Serranidae とされていた日本産各種の帰属, および高次分類群に適用する標準和名の検討. *Ichthy, Natural History of Fishes of Japan*, 19: 26–43.
- 中村亮太・渡辺隆太・大井真人・本村浩之. 2024. 宮崎県南部から得られた九州沿岸初記録を含む南方系魚類 7 種. *Ichthy, Natural History of Fishes of Japan*, 49: 61–67.
- 中西 健・渋川浩一. 2026. 静岡県から得られた北限記録のイトヒキオキハギ. *Ichthy, Natural History of Fishes of Japan*, 65: 18–22.
- Noichi, T., T. Kanbara, Subiyanto and T. Senta. 1991. Depth distribution of the percophid *Matsubaraea fusiforme* in Fukiagehama beach, Kyushu. *Japanese Journal of Ichthyology*, 38: 245–248.
- 落合 明・益田 一. 1974. 伊豆海岸から得られたクダゴンベ (新称) *Oxycirrhites typus* について. 魚類学雑誌, 21: 165–167.
- 緒方悠輝也・村瀬敦宜. 2020. 延岡市の砂浜海岸から得られた宮崎県初記録のホカケトラギス科魚類マツバラトラギス. *Nature of Kagoshima*, 47: 33–35.

- 大橋祐太・本村浩之. 2011. 大隅諸島以北の鹿児島県におけるカレイ目魚類相. *Nature of Kagoshima*, 37: 71–118.
- 大河俊之・増井達洋・関 伸吾. 2014. 高知県の浅海砂浜域における小型底魚類の種組成と分布. *黒潮の資源海洋研究*, 15: 95–104.
- 岡田 誠. 2025. カスミフグ, p. 430. 本村清志・笹木大地 (編) *美しい国の魚たち 三重県の魚類図鑑*. 本村清志, 伊勢.
- 大西 遼. 2024. 串本海中公園センターで記録された魚類. *串本海中公園マリンパビリオン*, 15: 1–24.
- 大西 遼・谷口勝政・平嶋健太郎. 2025. 水中写真に基づく和歌山県初記録のハゼ亜目魚類 18 種. *和歌山県立自然博物館館報*, 43: 47–57.
- 太田啓佑. 2020. 高知県初記録のハタタテギンポ. *ニッチェライフ*, 7: 26.
- Randall, J. E. 1963. Review of the hawkfishes (family Cirrhitidae). *Proceedings of the United States National Museum*, 114: 389–451, pls. 1–16.
- Randall, J. E. and W. N. Eschmeyer. 2002 (dated as 2001). Revision of the Indo-Pacific scorpionfish genus *Scorpaenopsis*, with descriptions of eight new species. *Indo-Pacific Fishes*, 34: 1–79.
- 坂井陽一・門田 立・清水則雄・坪井美由紀・山口修平・中口和光・郷 秋雄・増井義也・橋本博明・具島健二. 2009. トカラ列島の島、中之島、平島、小宝島における浅海性魚類相 —2002 年–2007 年の潜水センサス調査から—. *広島大学大学院生物圏化学研究科紀要*, 48: 19–35.
- 桜井 雄. 2014. コクハンアラ, p. 161. 本村浩之・松浦啓一 (編) *奄美群島最南端の島 — 与論島の魚類*. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島・国立科学博物館, つくば.
- 桜井 雄. 2019. ハタ科 Serranidae (ハタ亜科 Epinephelinae), pp. 84–95. 本村浩之・萩原清司・瀬能 宏・中江雅典 (編) *奄美群島の魚類図鑑*. 南日本新聞開発センター, 鹿児島.
- 笹木大地. 2025. ミナミアカシタビラメ, p. 224. 本村清志・笹木大地 (編) *美しい国の魚たち 三重県の魚類図鑑*. 本村清志, 伊勢.
- 佐々木哲朗・瀬能 宏・山田鉄也・内野啓道. 2014. 小笠原諸島兄島および父島の海産魚類相. *小笠原研究*, 41: 13–39.
- 瀬能 宏. 2013a. ヨウジウオ科, pp. 615–635, 1909–1913. 中坊徹次 (編) *日本産魚類検索 全種の同定*. 第 3 版. 東海大学出版会, 秦野.
- 瀬能 宏. 2013b. ハタ科, pp. 757–802, 1960–1971. 中坊徹次 (編) *日本産魚類検索 全種の同定*. 第 3 版. 東海大学出版会, 秦野.
- Senou, H. 2019. *Silhouettea dotui*, p. 1123. In Koeda, K. and H.-C. Ho (eds.) *Fishes of southern Taiwan*. National Museum of Marine Biology and Aquarium, Pingtung.
- Senou, H., Y. Kobayashi and N. Kobayashi. 2007. Coastal fishes of the Miyako Group, the Ryukyu Islands, Japan. *Bulletin of the Kanagawa Prefectural Museum (Natural Science)*, 36: 47–74.
- Senou, H., H. Kodato, T. Nomura and K. Yunokawa. 2006a. Coastal fishes of Ie-jima island, the Ryukyu Islands, Okinawa, Japan. *Bulletin of the Kanagawa Prefectural Museum (Natural Science)*, 35: 67–92.
- Senou H., K. Matsuura and G. Shinohara, 2006b. Checklist of fishes in the Sagami Sea with zoogeographical comments of shallow water fishes occurring along the coastlines under the influence of the Kuroshio Current. *Memoirs of the National Science Museum, Tokyo*, 41: 389–542.
- Senta, T., T. Noichi and K. Shigemitsu. 1989. The percophidid *Matsubaraea setouchiensis* from the Fukiagehama beach, south-western Kyushu. *Bulletin of the Faculty of Fisheries, Nagasaki University*, 65: 1–8.
- 霜村胤日人. 2013. 浜名湖で新たに記録された魚たち. はまな, 544: 6.
- 下瀬 環. 2021. 沖縄さかな図鑑. 沖縄タイムス社, 那覇. 207 pp.
- 園山貴之・萩本啓介・堀 成夫・内田喜隆・河野光久. 2020. 証拠標本および画像に基づく山口県日本海産魚類目録. 鹿児島大学総合研究博物館研究報告, 11: 1–152.
- 須田有輔・中根幸則・大富 潤・國森拓也. 2014. 開放的な砂浜海岸である鹿児島県吹上浜のサーフゾーン魚類相. *水産大学校研究報告*, 63: 1–15.
- 鈴木寿之・渋川浩一・矢野維幾・瀬能 宏. 2021. 新版 日本のハゼ. 新訂・増補版. 平凡社, 東京. 587 pp.
- 高木基裕・平田智法・平田しおり・中田 親. 2010. えひめ愛南お魚図鑑. 愛南町, 愛南. 250 pp.
- 竹内直子・瀬能 宏・青木優和. 2012. 伊豆半島大浦湾の魚類相および相模湾沿岸域におけるその生物地理学的特性. *日本生物地理学会会報*, 67: 41–50.
- 田中翔大・下光利明・瀬能 宏・宮崎祐介. 2020. 慶良間諸島渡嘉敷島渡嘉志久湾の魚類相: 144 種の追加記録. *神奈川県立博物館研究報告 (自然科学)*, 49: 107–118.
- 田代郷国・藤原恭司. 2022. ホカケトラギス科, p. 220. 岩坪洗樹・伊東正英・山田守彦・本村浩之 (編) *薩摩半島沿岸の魚類*. 鹿児島水圏生物博物館, 枕崎・鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島.
- 土屋光太郎・山本典暎・古見きゅう. 2005. 本州最南端 南紀串本 海の生き物ウォッチングガイド. 株式会社ピーシーズ, 東京. 264 pp.
- 津野義大・幸 大二郎・本村浩之・遠藤広光. 2022. 標本に基づく高知県初記録のフサカサゴ科魚類 5 種. *Ichthy, Natural History of Fishes of Japan*, 17: 79–87.
- 宇井縫蔵. 1924. 紀州魚譜. 紀元社, 東京. 282 + 43 pp.
- 和田英敏・棟方航平・手良村知功・前田達郎・松山侑樹・西川士朗・本村浩之. 2025. 御蔵島産魚類目録. *Mikurensis*, 14: 5–54.
- 渡井幹雄・宮崎佑介・村瀬敦宣・瀬能 宏. 2009. 慶良間諸島渡嘉敷島嘉志久湾の魚類相. *神奈川県立博物館研究報告 (自然科学)*, 38: 119–132.
- 山田梅芳・柳下直己. 2013a. ウシノシタ科, pp. 1693–1698, 2233–2234. 中坊徹次 (編) *日本産魚類検索 全種の同定*. 第 3 版. 東海大学出版会, 秦野.
- 山田梅芳・柳下直己. 2013b. フグ科, pp. 1728–1742, 2239–2241. 中坊徹次 (編) *日本産魚類検索 全種の同定*. 第 3 版. 東海大学出版会, 秦野.
- 山川宇宙・三井翔太・小田泰一朗・森田 優・碧木健人・丸山智朗・田中翔大・斉藤洪成・津田吉晃・瀬能 宏. 2020. 相模湾およびその周辺地域で記録された分布が北上傾向にある魚類 7 種. *神奈川県自然誌資料*, 41: 71–82.
- 吉田朋弘. 2019. テンジクダイ科, pp. 116–145. 本村浩之・萩原清司・瀬能 宏・中江雅典 (編) *奄美群島の魚類図鑑*. 南日本新聞開発センター, 鹿児島.
- 吉田朋弘. 2022. テンジクダイ科, pp. 106–113. 岩坪洗樹・伊東正英・山田守彦・本村浩之 (編) *薩摩半島沿岸の魚類*. 鹿児島水圏生物博物館, 枕崎・鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島.
- 吉田卓史・伊東正英・山田守彦・本村浩之. 2025. 薩摩半島西岸と南岸から得られた初記録の魚類 62 種. *Ichthy, Natural History of Fishes of Japan*, 53: 23–39.
- 吉田奈央・大西 遼. 2025. 和歌山県から得られた南方性テンジクダイ科魚類 2 種の記録. *Ichthy, Natural History of Fishes of Japan*, 55: 63–68.
- 吉郷英範. 2004. 南大東島で採集されたタイドプールと浅い潮下帯の魚類. *比和科学博物館研究報告*, 43: 1–51, 10 pls.
- 吉郷英範. 2014. 庄原市立比和自然科学博物館所蔵のトゲウオ目魚類 (硬骨魚類). *比和科学博物館研究報告*, 55: 279–326.
- 吉郷英範. 2018. 広島県から記録されている海産魚類目録. *比和科学博物館研究報告*, 59: 127–203.
- 吉郷英範・中村慎吾. 2002. 比和町立比和自然科学博物館魚類収蔵標本目録 II. *比和町立自然科学博物館標本資料報告*, 3: 85–136, pl. 1.
- 吉郷英範・中村慎吾. 2003. 比和町立自然科学博物館魚類収蔵標本目録 (III). *比和町立自然科学博物館標本資料報告*, 4: 31–75, pl. 1.
- 吉野雄輔・瀬能 宏. 2015. 山溪ハンディ図鑑 13 改訂版日本の海水魚. 山と溪谷社, 東京. 543 pp.
- 幸 大二郎・遠藤広光・本村浩之. 2023. 高知県と鹿児島県本土初記録のヨウジウオ科ヒナヨウジ. *Ichthy, Natural History of Fishes of Japan*, 36: 22–24.
- Yuki, D., H. Motomura, H. Wada, M. Aizawa, K. Sakamoto and R. Ueshima. 2025. A list of syngnathid (Teleostei) specimens deposited in the Department of Zoology, the University Museum, the University of Tokyo. *The University Museum, the University of Tokyo, Material Reports*, 139: 31–45.
- 幸 大二郎・津野義大・遠藤広光. 2022. 駿河湾沿岸の静岡県戸田から得られた北限記録のヨウジウオ科チゴヨウジ. *Ichthy, Natural History of Fishes of Japan*, 17: 75–78.